

記者手帳

病院の慢性的な経営難などを背景に医療廃棄物の処理料金が下がっている。病院の閉鎖など珍しくない情勢にあり、利益を生まない廃棄物の処理費用は経費節減の標的とならざるを得ない。

今夏、北海道、群馬などを取材、複数の処理業者に医療廃棄物処理のさまざまな話を聞いた。当然とすべきか料金の下

落傾向は首都圏に限った話ではなかった。札幌市を中心とするエリアで、数年前まで最も多く医療廃棄物を処理していた

医療廃棄物の場合、毎年行われる入札が、その引き金になることが多い。ある処理業者は、「医療廃棄物の実態に合っていないのでは」と疑問を露にする。こんな事例を聞いた。ある病

常なら考えられない話だ。慌てたのは病院。前年をやや上回る価格でほかの処理業者に落札した。

理施設を視察・見学し、処理方法や料金について調べれば、いくらでも実状を知りえたであろう。万が一、原価を下回るような価格で落札し、その事業が継続できず、不適正処理に回され

価格優先に終止符を

れば最終的にその責任を負うのは病院である。

これから処理業者同士が競争で値下げするという状況に突入。3年前の半値以下になったという。群馬でもほぼ同様で、新規参入業者との価格競争になり、下落傾向が広がっている。

院が収集運搬、容器、焼却費込みで1キログラム数十円という単価を提示した処理業者に

もはや意味がないとみて、撤退した可能性は高いが、なんともお粗末な話。

「値下げ競争に勝者なし」ともいわれる。あまりに極端な価格優先競争は遠からず破綻すると思われる。そろそろ終止符を打つべきであろう。

でもほぼ同様で、新規参入業者との価格競争になり、下落傾向が広がっている。

の年その処理業者が入札に参加しないことになった。廃業したわけでもなく、通

病院にしても入札に際し、処理の実態を知るなど、できることはあったはず。たとえば、複数の処

理施設を視察・見学し、処理方法や料金について調べれば、いくらでも実状を知りえたであろう。万が一、原価を下回るような価格で落札し、その事業が継続できず、不適正処理に回され

(文)